

ぶかつ揮見!

群馬県北部、豊かな自然が広がる沼田市にある県立尾瀬高校。その立地を生かし、尾瀬国立公園や武尊山にも足を運び、ニホンジカの生息数や尾瀬の植生、川の水質などの研究に取り組んでいるのが理科部だ。

長年続く調査も多いが、その中で毎年新しい視点や疑問もテーマに設定し、冬の県理科研究発表会で成果を披露する。自然体験イベントなどで小中学生や地元住民と交流することも大切な活動だ。

学校の植物園などで動物の痕跡を探したり、カメラを仕掛けたら……。新井梓さん(2年)は、地

理科部

県立尾瀬高＝群馬県沼田市



域に生息する動物の種類や数などの季節ごとのデータを集めている。学校の近くでも、熊の爪痕やリスが食べたクルミの殻が見つかる

という。「身近にこんなに動物がいるなんて、びっくりします。映像をみると、動物も木道や階段など、歩きやすいところを通っているんです」と話す。

顧問で同校実習助手の荒井裕二さん(33)は「興味を持ってデータを集め、自分の言葉で伝える。『マニア』ではなく、自然の状態を正しく知ってほしい」。

自然環境科がある同校には、県内外から多くの生徒が集まる。理科部員の半分以上も実家を離れ、

樹木や地面についていた動物の足跡や食痕を探し、記録する部員ら

身近な自然に新たな視点

ホームステイなどをしながら通っている。秋山航さん(3年)は栃木県佐野市出身。野鳥の生態や植生との関連などを調べる。普段から野鳥の種類や鳴き声の勉強を欠かさない。「ここに来たからには、しっかり学びたい」。自然環境に関わる仕事に就くことを目標に、研究に打ち込んでいる。(篠原あゆみ)